続 会津藩燃ゆ

白虎隊

燎原(りょうげん)に死す

歴史ドキュメント

星 亮一

教育書籍

続 会津藩燃ゆ

白虎隊

燎原(りょうげん)に死す

歴史ドキュメント

星 亮一

教育書籍

星（ほし） 亮一（りょういち）

一九三五年仙台市生まれ。高校時代を岩手県で過ごす。一関一高、東北大学文学部国史学科卒。福島民報記者を経て、福島中央テレビ入社。番組プロデューサーとして、「アメリカからの報告、野口英世・炎の生涯」「越龍吼ゆ！嵐の会津・長岡同盟」「風雪!!斗南藩―北斗以南皆帝州」等を制作した。

著書／『会津白虎隊』『猪苗代湖』『斗南に生きた会津藩の人々』『松平容保とその時代』『会津藩燃ゆ』他がある。

現在、福島中央テレビ報道制作局長、東北史学会会員。

会津藩燃ゆ 第二部

白虎隊（びゃっこたい）燎原（りょうげん）に死す

一九八六年十一月二十日初版第一刷発行
一九九一年四月二十日初版第九刷発行

●著者 星 亮一
●発行者 堤 慎一
●発行所 教育書籍株式会社
東京都新宿区高田馬場一―一二八―六 〒一六九
電話 〇三(三二〇五)〇〇二七

印刷／明和印刷 製本／渋谷文泉閣

※乱丁・落丁本はおとりかえいたします。
（定価はカバー・帯に表示してあります。）

目次

死闘白河城……5
長岡城陥る……21
魔の五月……34
運命の出逢い……46
白虎隊出陣……58
炎の海……73
北方は仁……86
輪王寺宮下向……98
灼熱の夏……110
仙台藩無残……123
新潟を死守せよ……137
裏切り……152
二本松落城……166
苦悩する会津藩首脳……180
痛恨母成峠……194
死の海……209
野獣の眼……229
慙愧の涙……243
あとがき……259
年譜……255

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

続 会津藩燃ゆ

白虎隊燎原に死す

死闘白河城

一、

慶応四年―。

東北、越後は未曽有の混乱にあった。

徳川幕府があえなく崩壊し、薩長は、怒濤のごとく江戸に進軍した。

「まさか!?」

東北、越後は、狼狽した。

京都守護職として、薩長と激しい死闘を繰り広げてきた会津藩は、朝敵の烙印を押され、奥羽越諸藩に会津追討の命令が出された。救会か討会か、奥羽越諸藩は揺れた。

孝明天皇の絶大な信を得、京都に君臨した会津藩兵は、固く城門を閉ざし、会津国境に兵を送った。

「死して藩公松平容保の汚名を雪ぐ」

会津藩首席家老梶原平馬は、頑として開城を拒否した。江戸で薩摩藩邸を襲撃した庄内藩も朝敵とされ、庄内追討の兵が仙台に上陸した。

奥羽鎮撫総督府下参謀、長州藩士世良修蔵の傍若無人の振舞いに激怒した仙台藩士は、福島で世良を誅殺、ついに仙台が立った。

上杉謙信を藩祖とする米沢藩も反旗を翻した。北越の雄、河井継之助の長岡藩も戦いを決意した。

会津藩士たちが放った小さな焔は、仙台、米沢、長岡に燃え広がり、やがて野火のように奥羽越を包んだ。東北、越後は一つ、という画期的な連帯である。

会津藩梶原平馬、山川大蔵、佐川官兵衛、仙台藩但木土佐、坂英力、玉虫左太夫、米沢藩千坂太郎左衛門、甘糟継成、長岡藩河井継之助、庄内藩松平権十郎、酒井玄蕃……、若き武士たちは、みちのくの曠野を疾った。

轟々と烈風が巻き起こり、黒煙が大陽を隠した。

彼薩長、猥りに朝廷を籠絡し、兵をだして王師と仮称し、以て、暴威を天下に振わんとするの野心ならずんばあらず。然らずんば、何ぞ事情を察せず、只管戦を好み、民を苦しめ、国を擾さんとするや。

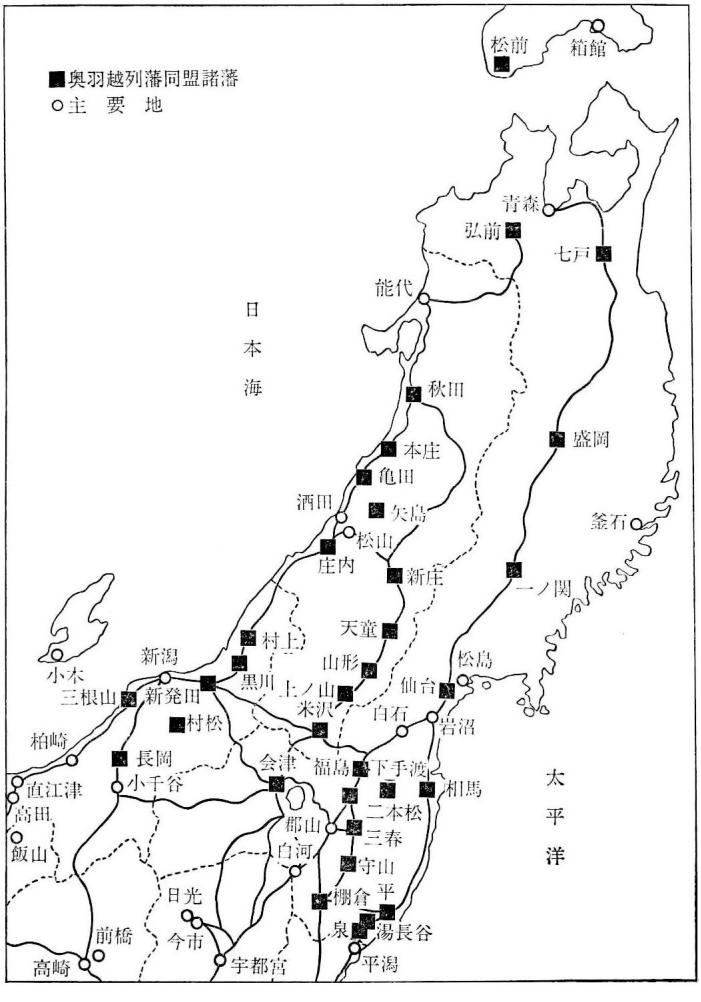
奥羽越の正義が決起したのだ。同盟は実に三十一藩に上った。

同盟諸藩

伊達陸奥守慶邦	仙台	六十五万石
佐竹右京太夫義堯	秋田	二十五万五千石
南部美濃守利剛	盛岡	二十万石
上杉弾正大弼斉憲	米沢	十五万石
丹羽左京太夫長国	二本松	十万七百石
津軽越中守承昭	弘前	十万石
戸沢中務太輔正実	新庄	六万八千二百石
阿部美濃守正静	棚倉	六万四百石
相馬因幡守季胤	相馬	六万石
秋田万之助映季	三春	五万石
水野真次郎忠弘	山形	五万石
松平山城守信庸	上ノ山	三万石
安藤理三郎信勇	平	三万石
田村右京太夫邦栄	一ノ関	三万石

板倉甲斐守勝尚	福島	三万石
松前志摩守徳広	松前	三万石
六郷兵庫頭政鑑	本庄	二万石
松平大学頭頼升	守山	二万石
本多能登守忠紀	泉	二万石
岩城左京太夫隆邦	亀田	二万石
南部遠江守信民	七戸	二万石
織田兵部太輔信敏	天童	二万石
内藤長寿丸政養	湯長谷	一万五千石
立花出雲守種恭	下手渡	一万石
生駒大内蔵親敬	矢島	八千石
溝口誠之進直正	新発田	十万石
牧野備中守忠訓	長岡	七万四千石
内藤紀伊守信民	村上	五万九千石
堀右京之亮直賀	村松	三万石
牧野伊勢守忠泰	三根山	一万一千石
柳沢伊勢守光昭	黒川	一万石

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.


■奥羽越列藩同盟諸藩
○主　要　地
松前
箱館
青森
弘前
七戸
能代
日
本
海
秋田
盛岡
本庄
亀田
酒田
矢島
釜石
松山
庄内
新庄
一ノ関
天童
村上
小木
新潟
山形
松島
三根山
新発田
黒川
上ノ山
仙台
米沢
白石
岩沼
村松
柏崎
長岡
会津
福島
下手渡
直江津
小千谷
相馬
太
平
洋
高田
二本松
都山
飯山
三春
白河
守山
平
日光
棚倉
湯長谷
前橋
今市
泉
高崎
宇都宮
平潟

奥羽越列藩同盟諸藩

盟主仙台藩は青葉城に同盟本部を置き、首席家老但木土佐が、兵器、弾薬、糧食、軍資を担当、福島に軍事局を置き、坂英力が指揮を執った。

本格的な戦いは、白河で始まった。白河は勿来の関と並ぶ奥州の二大関門である。西は勢至堂峠を経て会津若松に通じ、東は棚倉を経て海岸の平に通じる。北は須賀川、郡山、二本松、福島を経て仙台、米沢に通じる要衝である。

白河に仙台、会津を主力とする二千五百の同盟軍が集結した。白河城にへんぽんと仙台、会津の藩旗が翻った。

会津軍総督西郷頼母、副総督横山主税、仙台藩参謀坂本大炊、副参謀今村鷲之助、大隊長瀬上主膳らが作戦を練った。会津藩主松平容保は西郷頼母に、絶対死守の厳命を下した。梶原平馬も祈る気持ちで西郷の出陣を見送った。

西郷はごく最近まで恭順論者であった。容保と不仲で事ごとく対立した。今回は会津の浮沈を荷う大役である。いや、奥羽越の命運を握る責務が課せられている。しかし、梶原は一抹の不安を抱いていた。

西郷には実戦の経験がない。副総督の横山主税もまだ軍将ではない。旧幕府純義隊長小池周吾、新選組山口次郎、軍事奉行海老名衛門や隊長の小森一貫斉、鈴木作右衛門、日向茂太郎らに托すしかない。はたして、仙台藩と一糸乱れぬ共同作戦ができるのか。

「官兵衛がいれば」

梶原はおもった。頼みの佐川官兵衛は、越後に出兵し、会津を離れている。

「官賊襲来！」

五月一日早朝、激戦の火蓋が切って落とされた。西軍は伊地知正治の率いる薩摩、長州、大垣、忍の正規兵千四百である。伊地知は手に入れた白河の地図を広げて、作戦を指示した。

「会仙同盟はいまだ日が浅く、動きは鈍重である。そこで、三方から包囲作戦をとる。正面に砲を集め、正面攻撃を装い、敵を正面に牽制し、両翼から包囲攻撃にでる」

命令一下、敏捷に動く兵は強い。これに対して西郷頼母は同盟軍の兵数を兵力と過信した。積極的な攻撃体制をとらずに、兵の多くを白河城に留めている。これが失敗の原因となった。

寅の上刻（午前四時）―。西軍は三道から白河を襲った。薩摩五番隊、長州三番隊、大垣一中隊、忍一小隊は砲三門をもって本道から進撃した。東の間道からは薩摩二番隊、四番隊、大垣一中隊が押し寄せた。

正面の守備隊は仙台藩佐藤宮内の三小隊と砲六門である。小高い稲荷山に砲を据えた仙台兵は西軍に向って轟然と発砲した。

「グアーン」

西軍は二十ドイム臼砲で応酬する。稲荷山に数発の砲弾を撃ち込み、仙台藩砲兵隊をたちまち制圧した。

「ダダーン、バリバリ」

大小砲が間断なく白河の山々に響く。この砲声を聞くや、棚倉口を守備していた仙台、会津藩兵が急遽正面に回り、防衛する。ここで西軍を食い止めたかに見えたが、卯の上刻（午前六時）、今度は棚倉口に西軍の右翼部隊が奇襲攻撃をかけてきた。白河城を見下す雷神山（標高四二三メートル）攻略を目ざす薩摩兵である。正面攻撃に気をとられた同盟軍はたちまち苦戦に陥った。そこで仙台藩瀬上主膳が防戦に向かい、仙台兵四小隊と砲六門で必死に防戦、薩摩兵に手痛い打撃を与えた。

しかし、西軍の攻撃は執拗をきわめた。伊地知は攻撃隊の左右の森に必ず伏兵をひそませ、同盟軍が攻め込むとたちまち銃火を浴びせる。鳥羽、伏見の戦いと同じである。霰のように銃弾が撃ち込まれ、瀬上主膳の兵は、次々に朱に染まっていった。

「退け、退け！」

瀬上主膳は棒立ちになって、絶叫する。

一方、右翼の原方口方面は、薩摩五番隊、長州一中隊、大垣一中隊が立石山に布陣する会津藩兵に戦いを挑んだ。

白河城は前面に雷神山、稲荷山、立石山の三つの丘がある。東軍はここに大砲を据え、迎撃したが、伊地知は、正面の稲荷山を二十ドイム臼砲で粉砕し、両翼の陣地を奇襲した。しかも作戦は巧妙だ。攻撃隊の左右には狙撃兵をひそませている。

白河城址

最初の正面攻撃は少数精鋭の兵で行う。立石山の場合もそうだ。会津藩兵が必死の戦いで正面の敵を撃退し、山を下って追撃するや、左右の森林から強烈な乱射を浴びてしまう。

隊長の日向茂太郎はあっという間に撃ち抜かれ、守備兵は大混乱に陥った。仙台、会津の指揮官は狼狽し、冷静さを失っている。これが敗戦に拍車をかけた。仙台藩参謀坂本大炊は、前後の見境いもなく、兵数名を率いて飛び出した。阿武隈川を渡り、敵の後方にでて援護しようとして、頭を撃ち抜かれた。

「参謀がやられた！」

従者の知らせで副参謀の今村鷲之介が単身阿武隈川を渡り、坂本のそばに行くと、まだかすかに息がある。今村を見つけた狙撃兵が激しく小銃を撃ちまくる。今村は腹這いになったまま、身動きできない。ようやく従者が駆けつ

け、坂本を抱えながら田のなかを匍匐して、阿武隈川に飛び込み、坂本を収容したが、すでに息絶えていた。仙台藩兵にとって初めての火力戦であり、伊地知の作戦に翻弄され尽した。

会津軍副総督横山主税の死も哀れだった。横山は幕末の多難な時期に江戸家老を勤め、藩内の俊英を集めて公用局を設けた横山主税常徳の嗣子である。海老名郡治とともに徳川昭武に随行、フランスに修学した前途ある青年だった。パリで撮影した写真を見ると、理智的で、端正な顔をしている。

両翼を西軍に占領され、正面の稲荷山に敵兵が攻め登るのを見た横山は自ら采配を揮って、稲荷山に駆け登った。

稲荷山は右下りで、西北に斜面が流れている。すでに斜面の上には長州兵が登っており、横山の突撃隊は両翼と上から十字火にさらされた。前方からは霰のように弾丸が撃ち込まれる。横山は数発の銃弾を浴びて、もんどり打って倒れた。即死である。後続の会津藩兵は顔色を失った。

「副総督がやられた！」

沈痛な叫びが、斜面に響く。しかし、収容することもできない。辛うじて従者が横山の首を刎ね、持ち帰った。いまや三つの砦が落ちた。

西軍は、占領した稲荷山、雷神山、立石山に携臼砲を運び上げ、城内から突進してくる仙台、会津藩兵に砲撃を加え、両翼から火を放って城下に侵入した。仙台藩軍監姉歯武之進は抜刀して侵入してくる敵兵に立ち向い、数人を斬り、血路を開いて白河城中までたどり着き、そのまま絶

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.